



「消防団の活性化について」に
関する政策提言書

令和7年10月

名取市議会 総務消防常任委員会

1 検討テーマ

消防団の活性化について

2 解決すべき課題

全国的な傾向でもあるが、本市においても消防団の実員数は減少傾向にある。東日本大震災を機に、平成 25 年 12 月には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、国及び地方公共団体は消防団への加入促進、団員の処遇改善、団員の教育訓練の充実等に関して、必要な措置を講ずることとされた。

本市では、令和6年度から令和8年度までを計画期間とした「名取市消防団活性化計画」を策定し、消防団活性化の基本構想として、①消防団の任務の明確化、②組織の効率的・自主的運営、③効率的・実質的訓練に取り組んでいる。

3 調査及び検討の経過

(1) 執行部の聞き取り調査

令和6年 10 月 25 日

ア 消防団の活性化について

①消防団に関する近年の取組

1) 条例改正

現状に見合う条例定数とするため、令和4年度に条例定数を 480 名から 400 名に改正

2) 機能別団員制度の導入

消防職団員 OB を、基本団員を支援する団員として制度化し運用

3) 処遇改善

- ・出勤手当を出動報酬に改め、年額報酬と併せ個人支給とした
- ・全団員に行ったアンケート結果をもとに、行事サイクルを見直し、操法指導会の競技性を無くし、伝達講習会と一本化し負担軽減
- ・退職消防団員感謝状贈呈式を消防出初式に一本化し負担軽減
- ・報酬明細確認の効率化、源泉徴収票出力の利便性を図り Web 明細を導入

②名取市消防団の課題

出動車両を配備する各部署単位での現状は、消防団行事、各種訓練参加や災害出動に支障が予想される5名以下の団員数の部が5部もあるなど、消防団組織内に格差がある状況。

③組織再編の検討方法

- ・step1 各分団会議において検討
- ・step2 消防団組織再編検討部会において検討
- ・step3 消防団幹部会議において検討と意思決定
- ・step4 消防本部において検討内容を整理

④消防団への応援の取組について

地域防災力の中核である消防団について、「みやぎ消防団応援事業所」の協力を得ながら地域を挙げて応援することにより、消防団員のモチベーションの維持向上を図る

(2) 消防団の再編計画に取り組んでいる自治体の視察

令和7年7月 10 日 滋賀県甲賀市

テーマ 「甲賀市消防団組織再編計画について」

ア 消防団組織再編計画について

甲賀市では、消防団員の確保が難しくなる中で、変化に対応できる組織体制づくりに向け、令和3年度から令和 38 年度までの長期にわたる消防団組織再編計画が策定されている。現在までに3つの部・班が統廃合されており、今後も進められる予定である。組織再編においては、消防団員の理解が不可欠であることは言うまでもない。甲賀市では、組織再編を検討する上で、組織再編の方針を数字で示すことや、活動環境の整備促進、地域コミュニティとの連携に取り組んでいた。

4 提言する政策

近年、自然災害が大規模化・激甚化する傾向にあり、尊い命が失われ、経済的・社会的・文化的にも甚大な被害がもたらされている。こうした状況の中で、主に地域に居住または勤務し、地域の事情等に精通している「消防団」は、常備消防とともに「公助」を担いつつ、地域における「共助」の一翼を担う重要な存在である。

一方で、消防団員数の減少や平均年齢の上昇など、消防団を取り巻く現状は年々厳しさを増している。

そこで、消防団の活性化へ向けて、まず、消防団員の確保については、令和7年度に PR 動画を作成するが、消防団員の身分や処遇についてより一層の周知を図るなど、消防団の存在意義や役割、やりがいや処遇等が伝わる広報活動に積極的に取り組むこと。また「みやぎ消防団応援事業所」について、対象店舗の拡大に向け市内事業所に協力を求めること。

次に、消防団組織の再編については、人口における団員の割合、常備消防が

各地域へ到達するまでの時間との関係、車両運用に必要な人員など組織再編の方針を数字で示すこと。以上を提言する。